

月刊 夕
郵一ヶ月二十
部二五錢
廣一行四〇錢
料指所廿錢
發行兼編輯人
印刷人牛谷政
所福島縣平町四
行丁五三番地
所合川法版所

第二章 學理と實際

大内民恵

第二節 佛像をつくる
こゝに一つの佛像をつくる
として技術優秀なる彫刻家
數人を拉し來つてプラスを
示し教材を與へ其彫刻の過
程をこの數人に數分して之
に當らすか或は頭、胴手足
と數分して分擔させて彫刻
させるとしたならば果して
如何なるものが出來上りま
せうか其合作たるや推して
知るべしであります、
一人の彫刻家が一意専心を
亦推して知るべしであります、

咲たさいいた



陽はうららかな野に出に草も
え出づる樹々の芽生ね總て
のものみな行樂の春をおど
多分打續いて沈み切る人の
らぬものがあらうか、平町
松ヶ岡の櫻もさいいた、新川
土手の櫻も咲いた例年より
今年は約一週間早い、櫻も
多分打續いて沈み切る人の
此の日和が花の散るまで續
いてくれればよい、消防組
の奔走に係る花間の萬燈裝
飾も来る十日から廿日まで
はつく管 忠魂祭の其日か
らの賑はひが想像される、
しほるゝものに幸なし、
れ、踊れん氣におどれ、
へ池の鯉のやうに水をばわ
れれずに(寫眞は咲いた新
川土手の櫻)

教師なるものは小學校で
いへば塚原博士のいつた様
な一學年から卒業するまで
受持たすことの出來ない
いふ人格卓抜ならざる教師
であるのであります。

土木委員會

平町では七日午前十時から
町役場に土木委員會を開
いて第三小學校前道新設其
他に関し協議する所あつた

民政黨の部會總會

除名問題は出す

民政黨石城部會に於ける總務らぬ愛黨の結晶たる拳飛
會は既報せる昨六日午後一
時半から平町の同黨俱樂部
樓上に開いた同總會は幹部
間に相反する野崎滿藏氏
一派の除名決議あるもの、
如く傳へられたので午前十
時半よりつめかけた約三百
名の出席が開會前既に風雲
急を告げ平署でも萬一を憂
慮し物々しい警戒の裡に同
志相共に固づるを誓ひ不穩
幕は切つて落された、先づ
役員承認に就て同黨が過
般の衆議選舉前に行はれた
クラブ及び有聲座に於ける
二つの部會總會の何れを認
むるか曾て民政黨本縣支
部にありても議論のあつた
如く可否相反して喧嘩の末
若松美三氏を會長に推した
る俱樂部樓上の總會を認む
ると同時に同總會の選む役
員を承認することに決し次
いで九項に於ける決議文に
半水道擴張
工專の進行

米問題の重要

石城部に於ける
性之其の検討
外山生
米問題の重要
之を輸出方面から調べて見
ると極めて露骨に事實が露
明してゐるから申上げて見
よう、本郡内から管外に輸
出する米は米價の高時時恐
らくは三者三様に不平不
満の大正十三年頃で年額三
百六十九噸、二萬四千四
百九十八石で之は全部内外
混合白米で玄米の輸出は郡
外の地主に納入する僅々百
俵足らずのものに過ぎない
米價の高時時でさい他縣に
は需用がないのだから米價

夫婦で衣類を盗む

双葉郡廣野村の淺見川生れ
當時東京府下大崎町桐ヶ谷
牧元義(三)は去二月中内縁
妻根本はる(三)と共に茨城
縣土浦町長谷川將則方に止
宿中共謀して同入方の羅紗
オーベ及び海老榮コート各
一着を窃取逃走なし之れを
我物顔に着裝して平町字南
町鯨岡市太郎方に潜伏して
ゐたが平署のために逮捕さ
れた。

辻強盗の片

既報去月廿八日の夜平町南
町日本食堂で飲酒の歸途
全家の客横濱市生れ君島方
圓三十錢在中の財布を強奪
した二人組の犯人茨城縣多
賀郡石岡炭鑛坑佐佐川直也
も角も會々旅行する人達の
食膳に現はるゝ飯米の劣悪
なるに一驚を喫しない人は
あるまい程に平常の消費
が劣悪化した了つたのであ
る、何故此の様に生産者も
之を輸出方面から調べて見
ると極めて露骨に事實が露
明してゐるから申上げて見
よう、本郡内から管外に輸
出する米は米價の高時時恐
らくは三者三様に不平不
満の大正十三年頃で年額三
百六十九噸、二萬四千四
百九十八石で之は全部内外
混合白米で玄米の輸出は郡
外の地主に納入する僅々百
俵足らずのものに過ぎない
米價の高時時でさい他縣に
は需用がないのだから米價

(三)の相棒は逃走行方不明
北村山部生れ前科一犯の
であつたが平署から追跡し
た桑原、半澤の兩刑事のた
め東京府下三川島に潜伏中
を去五日取押へられた全人
は同じ石岡炭鑛坑夫で山形

面白くお安く

面白くお安く
電話八六五番
平新田町

面白くお安く
電話八六五番
平新田町

安いからこて
品はわちて
ません
良いか、悪いか
試してごらん
小笠銘茶

大角園

大角園
特約
お徳用向
壽仙二〇錢
福壽一八錢
焙茶拾五錢
番茶拾五錢
川柳拾二錢

瓶詰和洋
酒、罐詰
雜貨、洋
菓子類
店商谷半
(隣院病松若)町大町平
何れも四半斤袋入
正味四十目

春蠶掃立の諸準備 (一)

霜害豫防と蠶種の撰擇

桑の芽は日毎にふくらみ此分ではもう間もなく蠶種の催青が始まる本年は幾らか早目になるかも知れぬ石城郡の春蠶は例年に大變な二萬枚弱(蠶家六千三百戸)で本月下旬から來月一二日にかけて大方掃下される様であるが蠶家は今年の様な變調な天候には一層油断ならぬ霜害(例年本月廿日頃まで霜降)を忘れてはならぬと同時に掃立準備に手ぬかりなきやう心掛ねばならぬ霜害豫防には燻煙や撒水その他種々の方法を唱へられてゐるが多くの實行が困難であり骨を折つた割合に効果がない如何なる方法が一番有効であるかと云へば豫め稚蠶に與ふる桑園(蟻量一穴に對する約五十株の割合で普通蠶家は百五十乃至二百株、錦村沼部方面の大養蠶家は千株位)を定めて置いて降霜の前兆があつたら(農會其他から豫報もある筈)新聞紙その他の手輕なものをして一株毎に包裝する甚はだ姑息の手段だが是れは實行しただけ確實に有効なもので一家を擧げて夫れに當れば二百株位は大して困難でない次は蠶種と掃立であるが悪い種からよい蠶の生れよう道理なく先づ以て蠶種の撰擇である之れも専門的には色々な方法はあられるけれども肉眼鑑定で云へば無毒なもの卵の産着と産列に申分がなく粒がよくて容易に脱落せぬ程度のもの水引(卵の中央にあるくぼみ)は歪卵の真ん中に位置正しくついていて片在や形状の異様なものはよくない併して蠶種の購入には蠶種家の技術と人格にまち原蚕の發育状況を知ることが必要である單に値の安いものや外見ばかり美しいものを求めると危険がある。

都々逸

行樂の春が來ました不景氣を吹き飛ばす様に陽氣になりませう和歌でも狂歌でも俳句でも都々逸でもドンドン寄せて下さい

人の振り見て我ふり直せ、さくら花見て色直せ
春と思へば心もぞろ、櫻さくよや氣にもなる
松が岡なら待つてもよかる、咲て散のがなせ早い
花と散たる寫眞に向ひ、もみじ合せるいちらしさ
まよ三升檜片手に下で、破れかぶれの花見酒
下に下には昔のみちよ、左ひだりはいまのみち
笑ふ目元の劍もあれば、怒る目元の慈悲もある
咲いて牡丹と云はれるよりも散て櫻と云はれたい

春に應はしいお召ものは

傘
ワイシャツ
ネクタイ
メリヤス
帽子
靴
女服

モリタヤ

平町五丁目 電話 353番

諸毒下シの大妙藥

安流丸

平町五丁目 電話 353番

櫻で自慢の

平町松ヶ岡公園

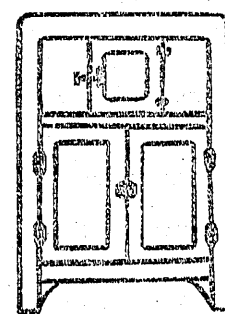
三光館

松ヶ岡公園 表坂の入口

冷蔵の器

製造元 丸

平町 電話 三五九番



貸切自動車の
用命は 昭和
高級車で タクシーへ
乗心地よ 昭和
平驛前 タクシーへ

電話 三四三番



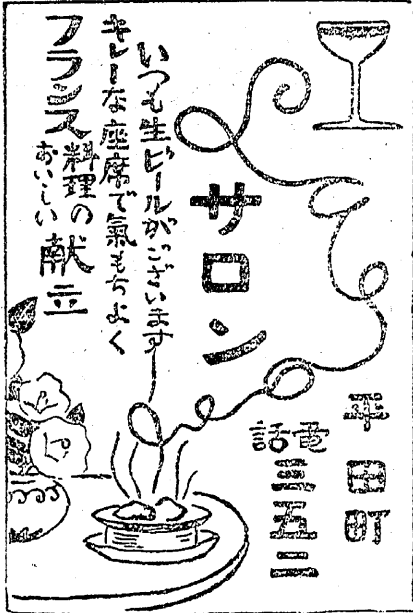
安價に 迅速に 親切に

福島縣石城郡平町

遠藤活版所

電話七四二番

平町 電話 三五三



よろちございますか

うちりますか

中島寫眞館

平町字田町




帽
子
シヤツ
ネクタイ
子供服

陽春の御用意は

ハルツ

平町四丁目電話一〇四番



平町田町通電話六五六番

玉屋洋品店



和洋金網

良品廉賣

質と高く 價と低く

商店屋本

平町五丁目電話三五九番